

# 第65回景況アンケート調査 結果報告書

(令和7年1月10日作成)

## 足利商工会議所

足利市通3丁目2757  
TEL0284-21-1354 Fax0284-21-6294

《令和 6年10月～12月期》実績  
《令和 7年 1月～ 3月期》見通し

### 調査要領

#### 1. 調査目的

本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、今後の経営支援や関係機関への施策、要望等の参考に資することを目的とする。

#### 2. 調査期間

令和6年11月13日(水)～令和6年12月10日(火)

#### 3. 調査対象企業

足利商工会議所議員事業所、足利地区雇用協会事業所など市内主要企業209社  
(うち回答企業数179社：回答率85.6%)

#### 4. 回答企業数

製造業	64 社
繊維工業	17 社
建設業・設備工事業	30 社
卸売業・小売業	31 社
飲食業・サービス業	37 社
計	179 社

#### 5. 景況指数DIについて

分析方法[景況動向指数(DI)による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で、上限はプラス100・マイナス100となり、プラスは景況の好転(増加)、マイナスは景況の悪化(減少)をあらわしている。

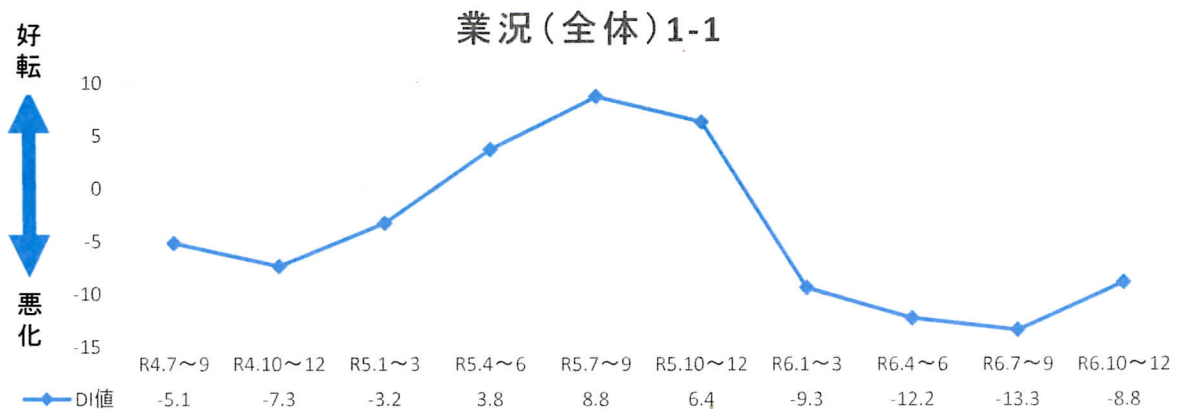
DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要になっている。

DI方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

x：「好転」「増加」「上昇」等の回答企業数  
y：「普通」「適正」の回答企業数  
z：「悪化」「減少」「下落」等の回答企業数

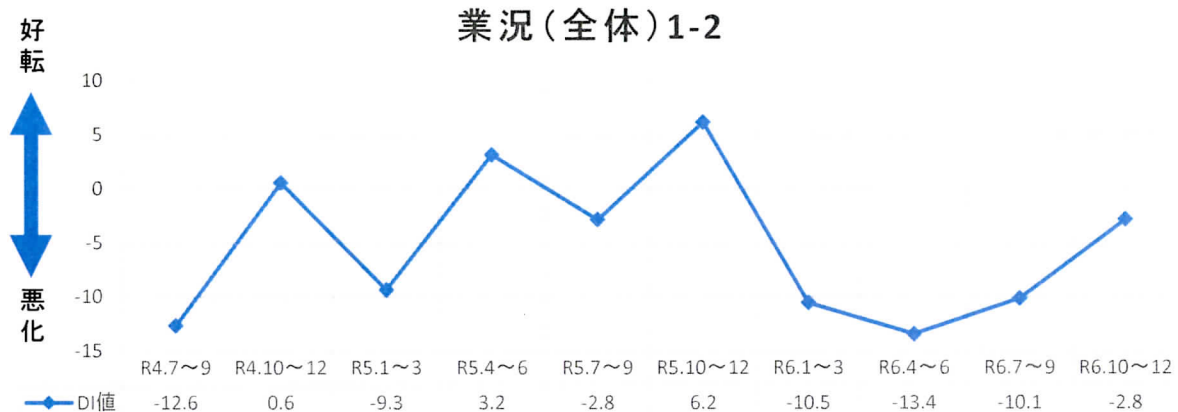
# 1. 当期（令和6年10月～12月）の景況について

## 1. 当期の業況は前年同期（1年前）に比べて



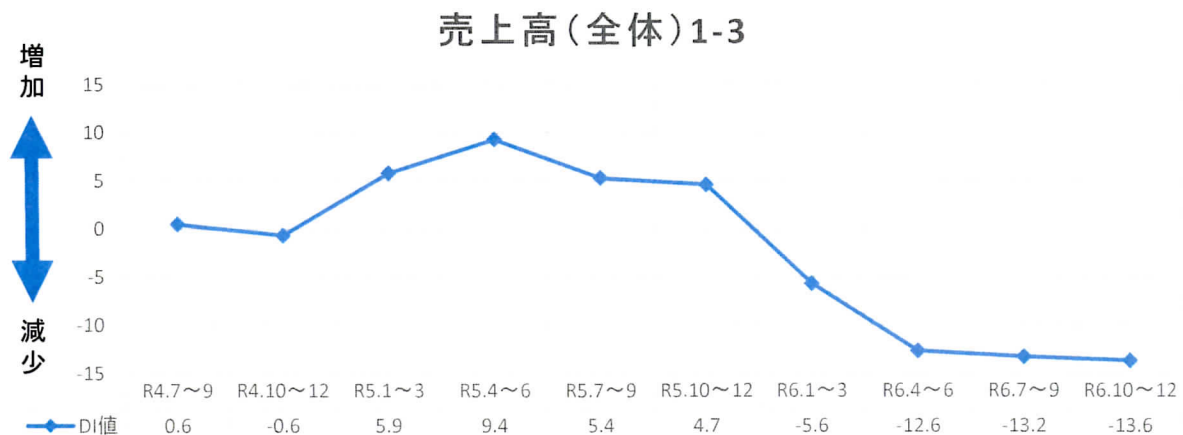
全体: 好転15%、不変59%、悪化26%      製造業: 好転17%、不変47%、悪化36%  
 繊維工業: 好転6%、不変71%、悪化23%      建設業・設備工事業: 好転13%、不変67%、悪化20%  
 卸・小売業: 好転10%、不変55%、悪化35%      サービス業: 好転22%、不変73%、悪化5%

## 2. 当期の業況は前期（前3ヵ月間）に比べて



全体: 好転20%、不変56%、悪化24%      製造業: 好転20%、不変50%、悪化30%  
 繊維工業: 好転12%、不変47%、悪化41%      建設業・設備工事業: 好転23%、不変63%、悪化14%  
 卸・小売業: 好転23%、不変45%、悪化32%      サービス業: 好転19%、不変76%、悪化5%

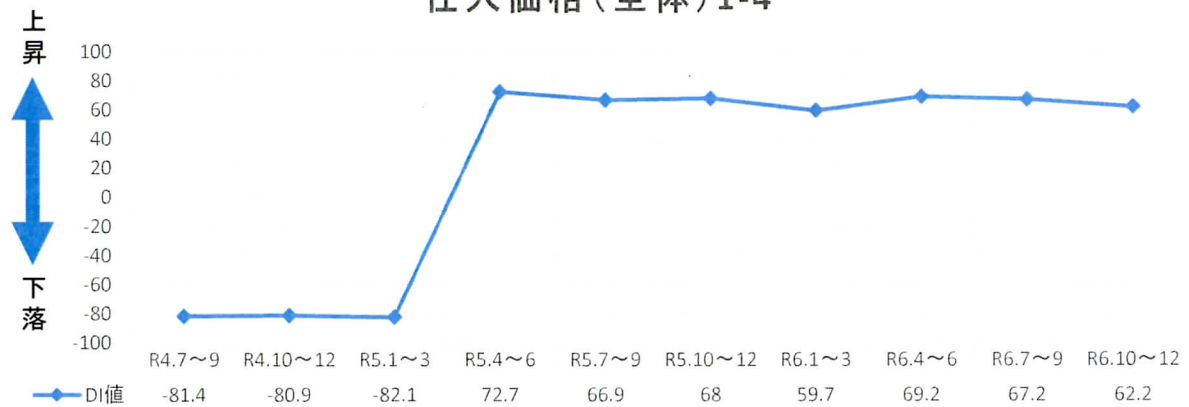
## 3. 売上高は前年同期に比べて



全体: 増加21%、不変43%、減少36%      製造業: 増加17%、不変31%、減少52%  
 繊維工業: 増加18%、不変47%、減少35%      建設業・設備工事業: 増加12%、不変53%、減少24%  
 卸・小売業: 増加19%、不変42%、減少39%      サービス業: 増加35%、不変54%、減少11%

#### 4. 仕入価格（原材料）は前年同期に比べて

### 仕入価格（全体）1-4



全体：上昇70%、不変28%、下落2%

繊維工業：上昇76%、不変24%、下落0%

卸・小売業：上昇71%、不変29%、下落0%

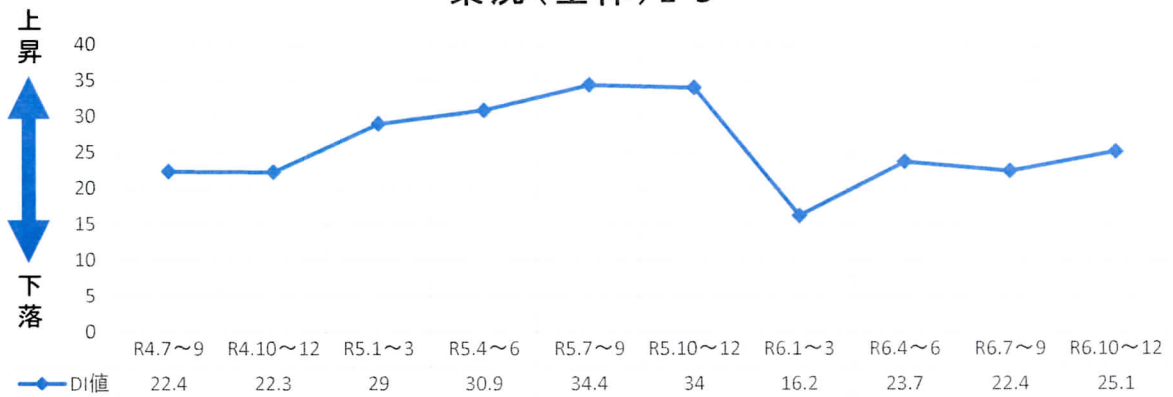
製造業：上昇64%、不変33%、下落3%

建設業・設備工事業：上昇83%、不変17%、下落0%

サービス業：上昇65%、不変32%、下落3%

#### 5. 受注・販売価格は前年同期に比べて

### 業況（全体）1-5



全体：上昇38%、不変54%、下落8%

繊維工業：上昇12%、不変65%、下落23%

卸・小売業：上昇48%、不変45%、下落7%

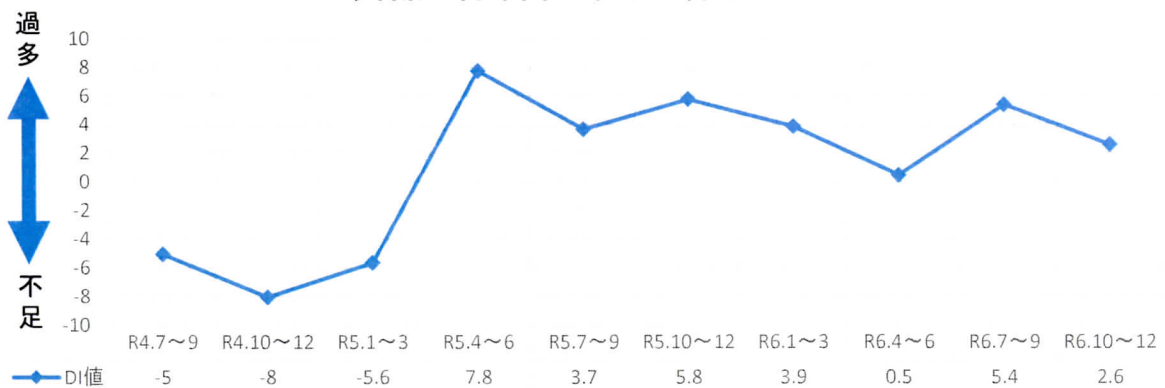
製造業：上昇44%、不変50%、下落6%

建設業・設備工事業：上昇20%、不変70%、下落10%

サービス業：上昇46%、不変49%、下落5%

#### 6. 当期の製品（材料）在庫は前年同期に比べて

### 製品・材料在庫（全体）1-6



全体：過多9%、適正84%、不足7%

繊維工業：過多18%、適正76%、不足6%

卸・小売業：過多23%、適正71%、不足6%

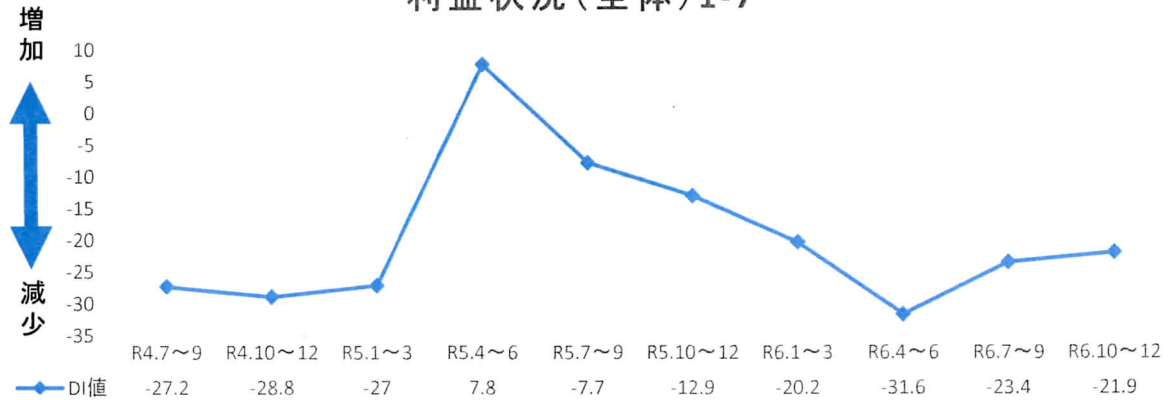
製造業：過多8%、適正88%、不足4%

建設業・設備工事業：過多3%、適正87%、不足10%

サービス業：過多3%、適正92%、不足5%

## 7. 利益状況は前年同期に比べて

### 利益状況(全体)1-7

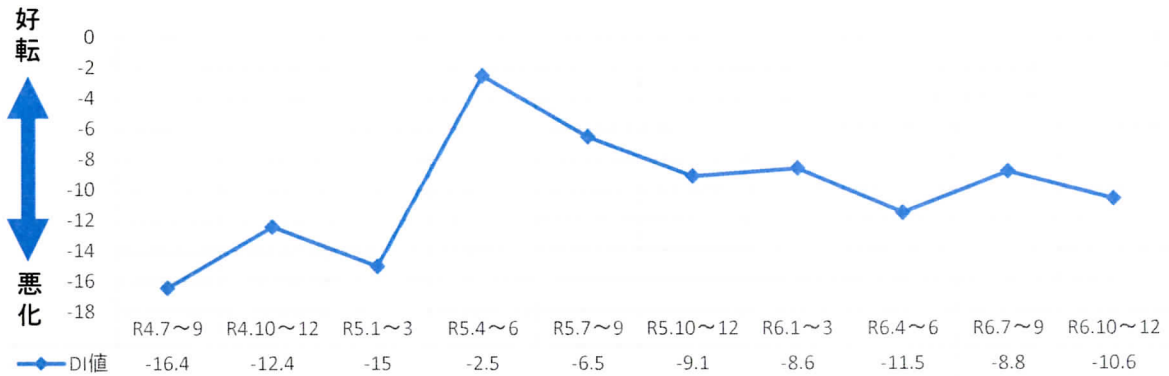


全体: 増加11%、不変52%、減少37%  
 繊維工業: 増加6%、不変53%、減少41%  
 卸・小売業: 増加6%、不変48%、減少46%

製造業: 増加14%、不変42%、減少44%  
 建設業・設備工事業: 増加7%、不変67%、減少26%  
 サービス業: 増加16%、不変59%、減少25%

## 8. 資金繰りは前年同期に比べて

### 資金繰り(全体)1-8

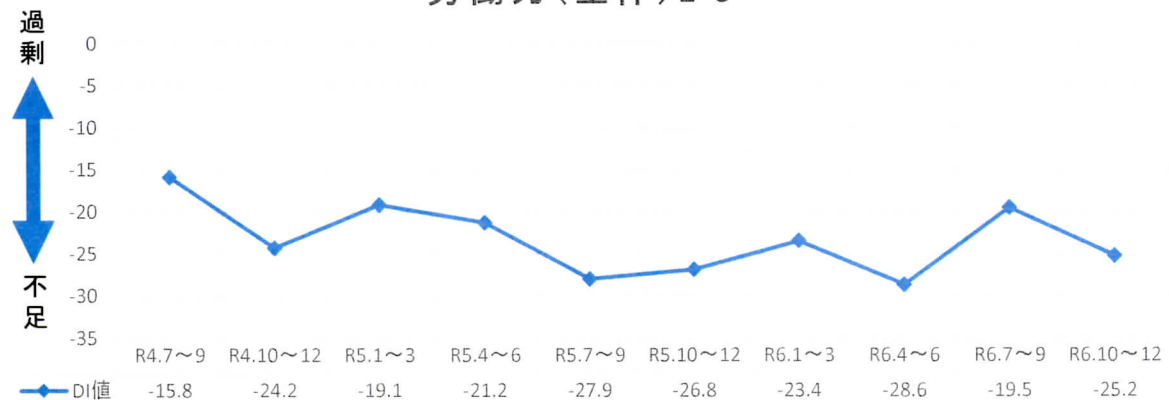


全体: 好転5%、不変77%、悪化18%  
 繊維工業: 好転0%、不変71%、悪化29%  
 卸・小売業: 好転7%、不変79%、悪化14%

製造業: 好転6%、不変77%、悪化17%  
 建設業・設備工事業: 好転3%、不変83%、悪化14%  
 サービス業: 好転7%、不変81%、悪化12%

## 9. 労働力は前年同期に比べて

### 労働力(全体)1-9



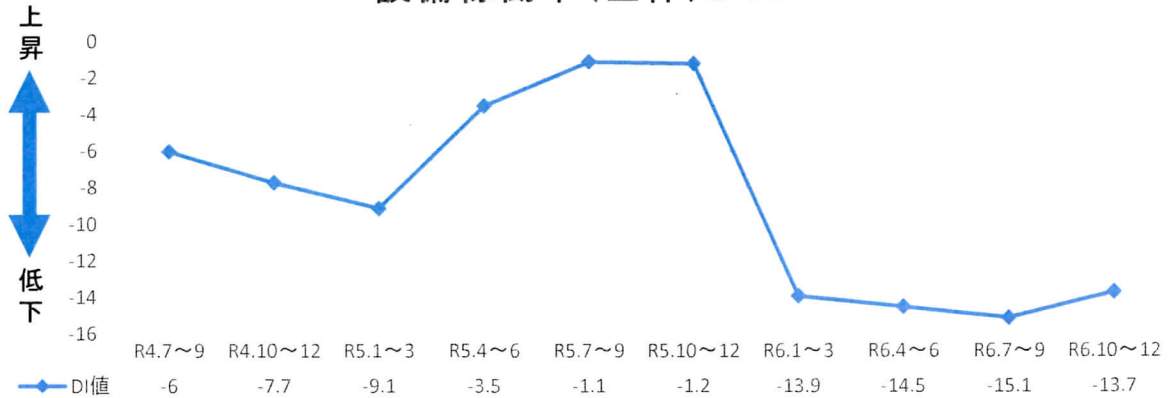
全体: 過剰6%、適正59%、不足35%  
 繊維工業: 過剰0%、適正59%、不足41%  
 卸・小売業: 過剰0%、適正61%、不足39%

製造業: 過剰13%、適正66%、不足21%  
 建設業・設備工事業: 過剰3%、適正43%、不足54%  
 サービス業: 過剰3%、適正57%、不足40%



## 10. 設備稼働率は前年同期に比べて

### 設備稼働率(全体)1-10

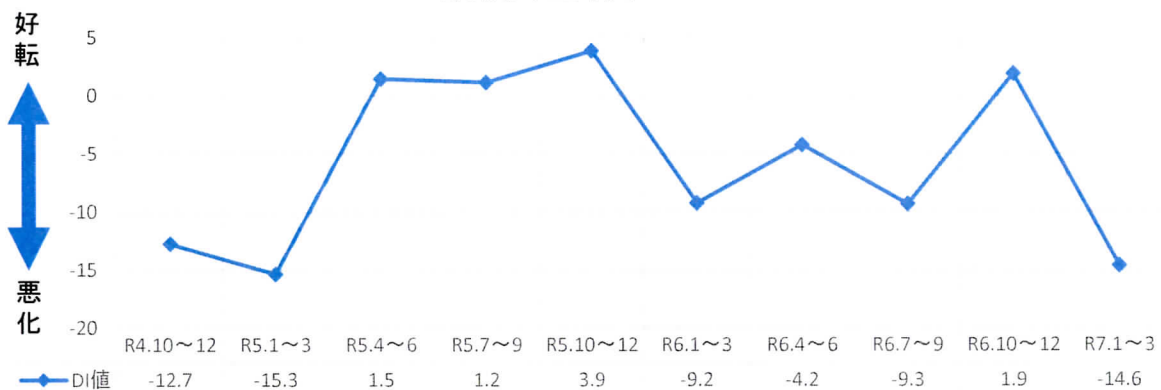


**全体:** 上昇8%、不変66%、低下26%      **製造業:** 上昇13%、不変45%、低下42%  
**繊維工業:** 上昇6%、不変53%、低下41%      **建設業・設備工事業:** 上昇3%、不変87%、低下10%  
**卸・小売業:** 上昇0%、不変66%、低下34%      **サービス業:** 上昇7%、不変81%、低下12%

## II. 今後3ヵ月間(令和7年1月~3月)の推移の予想について

### 11. 業況は当期(10月~12月期)に比べて

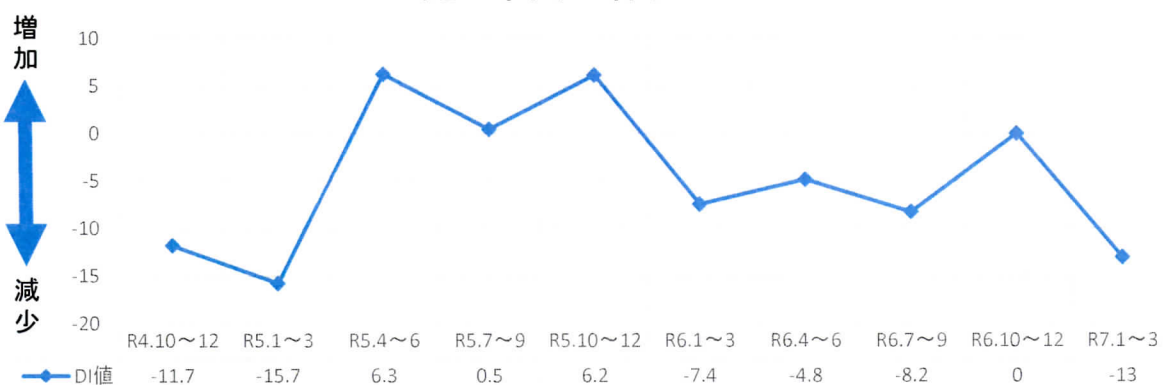
### 業況(全体)2-11



**全体:** 好転14%、不変58%、悪化28%      **製造業:** 好転12%、不変47%、悪化41%  
**繊維工業:** 好転12%、不変47%、悪化41%      **建設業・設備工事業:** 好転3%、不変80%、悪化17%  
**卸・小売業:** 好転3%、不変58%、悪化39%      **サービス業:** 好転5%、不変81%、悪化14%

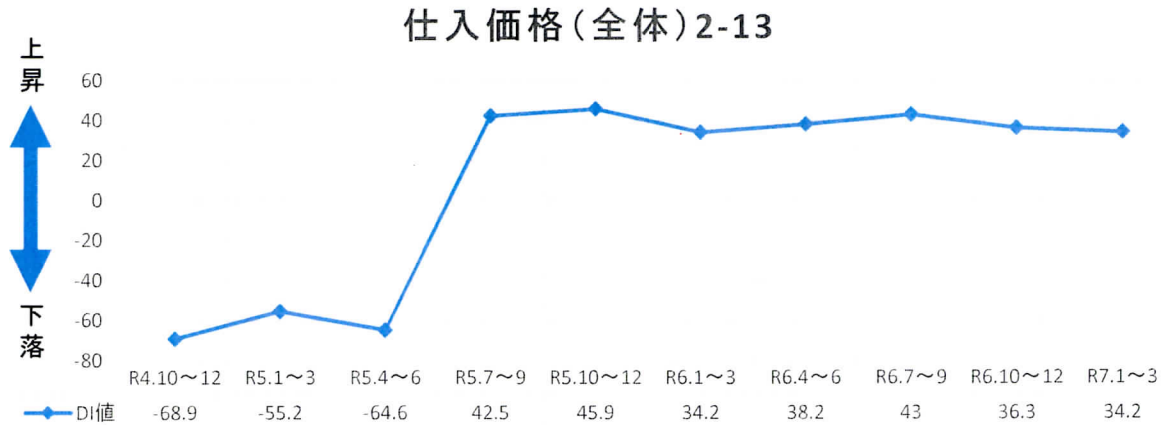
### 12. 売上高は当期(10月~12月期)に比べて

### 売上高(全体)2-12



**全体:** 増加12%、不変61%、減少27%      **製造業:** 増加16%、不変55%、減少29%  
**繊維工業:** 増加18%、不変41%、減少41%      **建設業・設備工事業:** 増加7%、不変73%、減少20%  
**卸・小売業:** 増加7%、不変55%、減少42%      **サービス業:** 増加14%、不変76%、減少10%

### 13. 仕入価格（原材料）は当期（10月～12月期）に比べて



全体: 上昇42%、不変57%、下落1%

繊維工業: 上昇59%、不変41%、下落0%

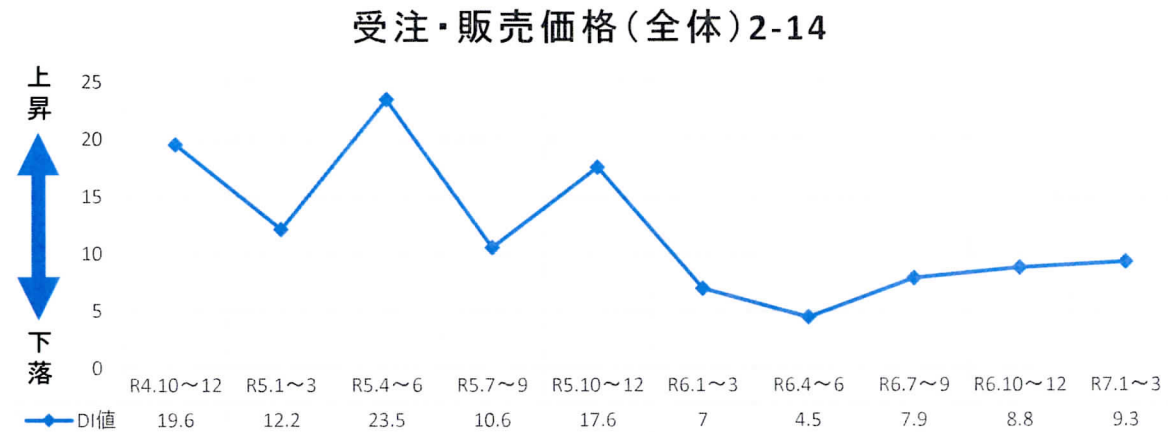
卸・小売業: 上昇58%、不変42%、下落0%

製造業: 上昇27%、不変72%、下落1%

建設業・設備工事業: 上昇43%、不変57%、下落0%

サービス業: 上昇46%、不変51%、下落3%

### 14. 受注・販売価格は当期（10月～12月期）に比べて



全体: 上昇18%、不変75%、下落7%

繊維工業: 上昇18%、不変65%、下落17%

卸・小売業: 上昇39%、不変61%、下落0%

製造業: 上昇13%、不変83%、下落4%

建設業・設備工事業: 上昇7%、不変80%、下落13%

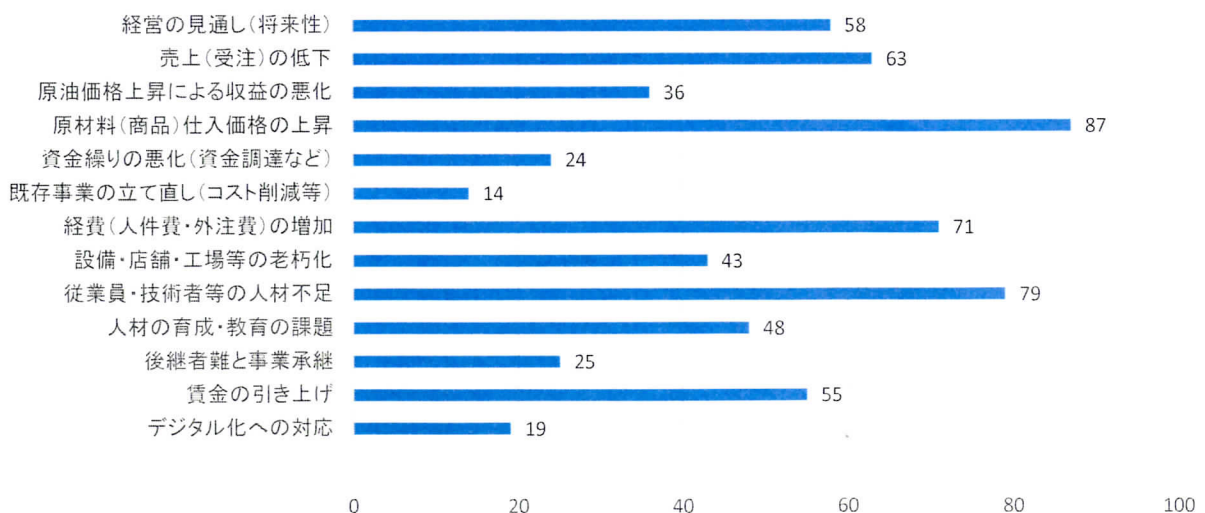
サービス業: 上昇22%、不変73%、下落5%

## III. 当期直面している経営上の問題点

### 15. 当期（10月～12月）直面している経営上の問題点について

※複数回答。上位回答を掲載

3-15



## 16. 労務費、原材料費等のコスト増加による価格転嫁について

●物価高や円安、エネルギー価格の高止まりなど、アフターコロナ局面でも厳しい経営環境が続いている。本業に係るコスト増加に対する価格転嫁について調査した。

全体では、「価格転嫁(値上げ)した」と回答が44%に上り、企業努力では追いつかない諸経費の急激な高騰に苦慮する姿が伺えた。

また、「価格転嫁(値上げ)を検討中」との回答は全体の29%となり、これまで価格転嫁を躊躇していた事業者も検討せざるを得ない状況になっている。

	製造業	繊維工業	建設業・設備工事業	卸・小売業	サービス業	全体
価格転嫁(値上げ)した	53%	35%	30%	45%	43%	44%
価格転嫁(値上げ)していない	22%	12%	23%	26%	22%	22%
価格転嫁(値上げ)を検討中	24%	42%	40%	26%	27%	29%
その他・回答無	1%	11%	7%	3%	8%	5%
	100%	100%	100%	100%	100%	100%

●また、「価格転嫁しない(出来ない)」理由の問いに対しては、次のような意見が挙げられた。

- ・売上が減るから価格転嫁しにくい(小売業)
- ・転注の可能性があるため(製造業)
- ・価格転嫁しても見積もりが通らない(製造業)
- ・親会社にコストアップが通らない。賃金ばかりが引きあがり困る(製造業)
- ・受注が減少してしまう恐れから(繊維業)
- ・売上が低下傾向にあること(卸・小売業)
- ・お客様の利益が減少するため(製造業)
- ・価格転嫁したと言っても昨今の物価上昇に比べれば少なく結果利益が減少。特に労務費の高騰が顕著。(建設業・設備工事業)

## 17. コスト増加の中で、最も影響を受けるものについて

・経営に係る様々なコストが上昇を続ける中、経営環境に大きな影響を与えるコストの内容について調査した。全体のほぼ半数の49%の事業所が、「原材料費」の高騰を、最も影響の大きなコストに挙げた。

続いて日常生活の物価高や人手不足を反映して「労務費」の高騰、続いて「エネルギー費」の高騰と続く結果となった。

	製造業	繊維工業	建設業・設備工事業	卸・小売業	サービス業	全体
原材料費	50%	47%	63%	58%	30%	49%
労務費	44%	18%	30%	23%	38%	34%
エネルギー費	5%	24%	0%	16%	24%	12%
その他・回答無	1%	11%	7%	3%	8%	5%
	100%	100%	100%	100%	100%	100%

## 〈概況〉

【令和6年10月～12月期 実績】

- 全体の業況におけるDI指数は-8.8ポイントで、前年同期6.4ポイント(1年前)から比較し15.2ポイント減少。
- 当期の業況-2.8ポイントは前期-10.1ポイント(前3ヶ月)と比較して7.3ポイントを戻す結果となった。
- 売上高-13.6ポイントは前年同期4.7ポイント(1年前)から比較し18.3ポイント減少。

当期の業況は、前の3カ月と比較し、若干の明るさが見えた結果となった。

【令和7年1月～3月期 見通し】

- 全体の業況におけるDI指数は-14.6ポイント(前3カ月比-16.5ポイント)と大きくポイントを下げ、前期の明るい見通しから一転、影を落とす結果となった。

【直面している経営の問題点】

- 「原材料(商品)仕入価格の上昇」を問題点として挙げる意見が最も多く、続いて「従業員、技術者等の人材不足」、「売上(受注)の低下」の順となった。

【業況に関するコメント】

- ・役人ファーストから産業ファーストの法改正や規制緩和を急ぐべし!
- ・大企業は自分の利益を上げることを考えていて、下請けや関連業者のことは無関心。(卸・小売業)
- ・会社の業績は運による所が大きいと改めて実感する(製造業)